

## 平成29年度第2回美しい宮崎づくり推進有識者会議 議事要旨

### 1 日時

平成29年8月22日（火）午後1時30分～午後4時10分

### 2 場所

宮崎県庁附属棟2階204号室

### 3 出席委員（12名）

議長 関西 剛康 、 委員 根岸 裕孝 、 委員 田代 景三  
委員 橋本 江里子 、 委員 宮野原 佳 、 委員 海老原 邦子  
委員 永井 佐代子 、 委員 谷越 衣久子 、 委員 福永 栄子  
委員 中島 雅隆 、 委員 北村 明政 、 委員 寺原 誠一  
委員 日高 茂信（欠席）

### 4 議事等

#### 【議事】

美しい宮崎づくり推進計画（素案）について

#### 【その他】

- (1) 美しい宮崎づくり大賞について
- (2) スケジュールについて

### 5 委員からの主な意見等

#### 【議事】

美しい宮崎づくり推進計画（素案）について

#### 〔委員〕

- ・ 前回の会議での説明を受け、住んでいる人が心地よさや快適さを感じるという、いわば身近な暮らしの視点がないと感じていたが、今回、資料3の16ページに「都市」が加わったのはよかった。さらに言えば、単純に緑だけではなく、住んでいる人が暮らしの中で培ってきた街の風情についても書き加えて欲しい。

#### 〔事務局〕

- ・ 「都市」については、自然だけではなく、私たちが暮らしている都市も重要だという考えから、今回書き加えたもの。いただいた御意見を踏まえ、書き足しを検討したい。

#### 〔委員〕

- ・ この計画は膨大な量であるが、全方位的な方向性は出てきている。一方で、ここ5年、10年でどこに重点を置くのか、ある程度具体的な方向性を示した方がいいのではないかと思う。

#### 〔委員〕

- ・ 目配りはできており計画としてはよくできているが、10年でどのようにステップアップしていくのが全体として分かるようにしないと、美しい宮崎づくりに向かっているということが実感しにくいのではないか。
- ・ 県民運動的な視点で、まず3年で目指していくことを打ち出した方がいいのではないか。シンボリックな戦略を入れていかないと実感が湧かない。
- ・ 人事異動も考慮すると、2、3年のスタートアップで何をするのか決めた方

がいいと思う。まずは、それに資源を集中し、それができれば次にステップアップすればいいのではないか。

[事務局]

- ・ 随所に「(平成32年度まで)」と記載しているのは、ただ漫然と取り組むのではなく、32年度までにここまで実施するという打ち出すためである。具体的にどうなるのかが見えやすくなるよう工夫したい。
- ・ 県民運動ということでは、県庁周辺の清掃など、県としてもできるところから始めている。また、6月には、美しい宮崎づくりの先駆的な活動を行っている団体の方を講師に招いて講演会を開催するなど、情報発信に努めているところである。
- ・ 資料1の2ページにあるとおり、3つの重点施策を定めて、この10年で重点的に取り組んでいこうと考えているところである。

[委員]

- ・ 重点的にするのであれば、やはり人づくり、担い手づくりだと思う。そうすればすべての分野に波及する。

[委員]

- ・ 10年後は社会情勢が結構変わっていると思う。この計画を毎年改変していかなければ県庁という大きな組織を回すことはできず、人づくりや体制づくりはできないのではないか。

[事務局]

- ・ 基本的には、平成32年度、平成35年度に見直しを図っていきたいと考えているが、それに限らず、毎年、施策の推進状況を推進本部会議や有識者会議においてチェックし、その結果を次年度の施策に反映させたいと考えている。

[委員]

- ・ 具体的にどのように実行していくのかを知りたい。実際に県民が実行するときに、誰と連携すればいいのかが分かるといい。
- ・ 広域的景観について、どういう風に、何のために計画を作るのか、もっと書かれていてもいいのではないか。

[委員]

- ・ 県は、どのようにプラットフォームを作り県民に示していくのか。そのための体制づくりをどのように考えているのか。

[事務局]

- ・ 庁内で推進本部を設置し、担当者レベル、課長レベルで議論する体制を整えており、それぞれの課で住民の方と接することになる。
- ・ また、市町村との連絡会も設けており、市町村を通じて住民の方の意見を聴くこともできると考えている。
- ・ できるだけ住民の方の御意見をいただき、また、こちらからも情報を発信していきたいと考えている。

[委員]

- ・ 市町村がやる気になるような仕掛けがないといけない。動いてみたいな、民間と連携してやってみたいなと思わせるようなインセンティブがないと今までの延長でしかないのではないか。

[事務局]

- ・ 美しい宮崎づくりでは、県民や事業者の皆様にごできるだけ参加してもらえかが重要だと考えている。このため、県では、6月末から美しい宮崎づくり活動団体の登録制度をスタートした。これは、美しい宮崎づくりを行う団体に登録していただき、県民や事業者への情報発信に協力するなどし、活動の周知や他の団体との交流の促進等を図るためである。また、登録団体がやりたいことを実現するための後押しもできればと考えている。

[委員]

- ・ 登録だけでは活動は変わらない。自分たちが動きやすい環境になるとか、活動が広がっていくという実感をどう作っていくかが大事。そのためには、お金の問題もあると思うし、活動が広がっていくことを実感できる仕掛けができているかが大事だと思う。

[委員]

- ・ 宮崎は、熊本に比べて町家が少ないが、50～60年経ったものは結構ある。例えば、そのようなものを県民みんなで発見するというような運動など、単純にみんなが参加できて誇れる取組があってもいいのではないかなと思う。

[委員]

- ・ 2、3年のうちの短期目標を設定すること、また、人々の気持ちが上がるような人づくりのための体制づくりを県がやらないと、10年経ってもさほど変わらないのではないかな。

[委員]

- ・ 地域の力が疲弊していく中で求められるのは、地域の造園屋や建築屋、民間企業が地域の人たちを巻き込んで、一つのテーマを決めてやっていけるような制度だと思う。そこに、企業のインセンティブがあれば継続していけると思うし、企業と学校や自治体が連携してということも考えられる。
- ・ 企業も完全なボランティアだと疲弊していくので、企業にメリットを持たせることができる制度を作るといいのではないかな。

[委員]

- ・ 企業とどう連携するかは非常に重要であるが、ボランティア団体にとっては企業に会うだけでも大変。県などの行政が間に入って、ボランティア団体と企業とをつなげるようなプラットフォームを作るだけで随分違ってくるのではないかな。
- ・ 大分では、金融機関が活動に対する賞を設けるなどしている。
- ・ また、「〇〇の花壇は〇〇会社が応援しています。」と紹介するような仕組みを作るといいのではないかな。

[委員]

- ・ ボランティアといえども企業が従業員に参加を呼びかけると拘束力が発生してしまうため、企業が土曜や日曜に活動に参加することが非常に難しいという現状がある。
- ・ 県と一緒に企業を回っても、協力を得ることは難しかった。

[委員]

- ・ 今回の取組としては、100年くらいのスパンで考えなければいけないもの

で、その中での10年の取組は良くまとまっているが、一県民として今何をしなければいけないかピンと来なかった。

- ・ 今までの経験上、人がキーになっている。キーマンをしっかり決めて取り組めば、20年、30年と続いていくのではないか。最初の3年でやるべきことは何かと言われれば、人づくりだと思う。

[委員]

- ・ 人づくり、資金、体制、ハード、ソフトなどいろいろな要素があるが、一番大切なものは人づくりだと思う。県には、リーダーシップをとって、景観の分野での人づくりをやって欲しい。
- ・ 縦割りである県の体制を、活動を行う民間にいかに合わせていけるかが見れば、県民も動きやすいのではないか。

[事務局]

- ・ 登録団体制度では、登録して終わりではなく、団体同士の交流会を行いたいと考えている。また、一部の企業からも登録団体制度について問合せが来ており、地域に根ざした活動を探している企業があるということも感じている。
- ・ このような企業と地域の団体を結びつける必要性を感じており、そのためにも登録団体数を増やし、交流会を行うなどしていきたい。

[委員]

- ・ そのような県の思いや意気込みを明確に書いて欲しい。

[事務局]

- ・ 人と人、活動と活動をつなげるトータルのコーディネート機能が非常に重要であるということは県としても十分認識しているが、お金や人も絡むことであり、書きぶりについては検討させて欲しい。

[委員]

- ・ コーディネーターとしての役割は県が担わないといけないので、県としてリーダーシップを執るということを書いて欲しい。

[事務局]

- ・ 今でも全く書いていないわけではないが、思いには達していないのかもしれないので、表現を考えさせて欲しい。
- ・ 推進体制については、資料3の99ページに書いてあるが、知事をトップに推進本部を設置したということで、庁内でも全庁的に取り組む重要なものであることを明確にしたところ。県としては、10年後もその先も条例に基づき、有識者会議から御意見をいただきながら、美しい宮崎づくりに取り組んでいく。

[委員]

- ・ ワーキングホリデーについては、具体的な数字として100人を目指すと言っている。計画に書くのは難しいのかもしれないが、思い切って具体的な目標を打ち出してもいいのではないかと思う。

[委員]

- ・ 資料3の99ページについてだが、美しい宮崎づくりは県行政の幅広い分野にわたるため、産業界を味方にして欲しい。産業界が応援しているという組織立てをしないと、県全体の取組にならないのではないかと思う。

[委員]

- ・ 主要指標について、美しい景観づくりがどの程度進んでいるのか、マインドを測れる指標があるといいのではないかと。県民意識調査にそのような問いを入れることはできないのか。

[事務局]

- ・ 県民意識調査に調査項目を追加することも検討したが、現状でも調査項目が多すぎ、全体的に項目数を削減しなければならないという状況であったため、実現しなかった。

[委員]

- ・ 評価をするときにチェック項目をどうするのかはいつも問題になる。自己点検の評価は具体的にどうするのか。

[事務局]

- ・ この計画よりも細かい工程表を作成し、チェックすることとしている。また、取組状況をまとめて公表しようと思っている。

[委員]

- ・ 質の評価にはつながらないのではないかと。本当はアンケート調査が必要だが、それができないというのはしっかり認識しなければいけないのではないかと。

[委員]

- ・ 資料3の99ページの図中には、本当はもっと細かい体制があると思う。
- ・ この計画は、白書のように毎年改定し、課題を洗い出し、それに対する取組を追加していく必要があると思う。

[事務局]

- ・ 事業者や活動団体の皆様にも活動に参加してもらい、民間の方々の意見を踏まえ、毎年計画を見直してもいいと考えている。

[委員]

- ・ スピード感がないといけないと思う。完成度が高くないとしても、次の年にまた見直せばいい。

[事務局]

- ・ 毎年、見直しの必要性について検討したい。

[委員]

- ・ 活動をしようとするとなんな窓口に言って許可をもらわなければならない。県と市町村にワンストップ窓口があるといい。日南市が「飢肥杉課」を設置したように、横串を貫いてやるんだという覚悟が見えるといい。

[委員]

- ・ 象徴的なものが見えないという意見があったが、その理由としては、都市ごとの目標が見えないからではないかと。大阪では、行政が「水都大阪」と打ち立てて、川を利用した景観づくりが広がっている。神戸の街路樹が大きいのも行政が街路樹は切らないと決めたから。また、奈良も20年前に「古都奈良」と打ち立てて、町家を活かした取組が広がってきた。
- ・ 宮崎県が「景観」と打ち立てたのはすごくいいが、それぞれの都市の目指す

方向を示す必要があるのではないかと思います。

[委員]

- ・ 県内では全ての市町村が景観行政団体に移行している。市町村の景観計画とリンクさせることは重要ではないかと思う。

[委員]

- ・ 今回、県が景観の推進計画を作るということで期待している。岩切イズムの後、景観をどう作っていくのか。この推進計画で目指すべき方向性の具体像が見えるとありがたい。
- ・ 市町村では、人口減少時代における地方創生の議論が盛んで、景観の予算は削られる傾向にある。しかし、だからこそ子どもたちが地元に着着を持つために景観が大事なんだということがうまく書いてあるとありがたい。

[委員]

- ・ 宮崎は、景観の方向性について迷っていると感じている。全国の都市では、景観計画策定後に景観方針を立てて変わってきているが、宮崎は乗り遅れている。それは、全国の先行事例を研究していないからではないか。
- ・ 方向性が分かっているのに手法を議論しても進まない。そのためにも計画を毎年改変し、課題を整理するといいいのではないか。

[委員]

- ・ 国体等を好機として捉えるということは確かにそうだと思っている。東京オリンピックや国民文化祭はすぐ近くに迫っている。具体的などころが見えてくると、企業などの多様な主体も参加しやすいのではないかと思う。

[委員]

- ・ 先ほど「ワンストップ窓口を」という話をしたが、ワンストップ窓口を作るということは、人を配置するということであり、当然お金も関係することであるので、実現は簡単ではないのかなとも思った。

[委員]

- ・ 各部署に景観担当を置くことが必要ではないかと思う。住民に接する最先端の部署で景観担当が業務をチェックすることが大事だと思う。
- ・ また、17年前に初めて宮崎に来たときに、花とグリーンと木のイメージがすごくあった。当時はグリーン博の成果があったが、最近はだんだん見えなくなっていると思う。例えば、「シンボルの木を植えましょう。」というような、広域的に取り組める県民運動を展開すべきではないか。

[委員]

- ・ 戦略が当たるかどうかはやってみないと分からないので、失敗してもいい。明確な目標を立てて、改善していくことが大事。小さな失敗を改善していく体制づくりを県を挙げて進めて欲しい。

[委員]

- ・ 宮崎県の沿道修景は素晴らしかったが、最近手入れが悪いと感じる。また、バイパス道路の開通を踏まえ、観光ルートの設定をどう考えているのか。
- ・ 計画とは別に、今年度このようなことに取り組むと打ち出すことも必要だと思う。例えば、高齢化や温暖化を考えると、街路樹を育てることが大事ではないかと思う。ワシントンニアパームも大事だが、人が歩くところには陰を作る街

路樹がふさわしい。

- ・ また、自分が植えた木がこんなに大きくなったというような、小さな達成感をみんなが持てるようなまちづくりが必要ではないか。

[事務局]

- ・ 目指すべき姿を「愛着と誇りを持てる・・・」としたのは、進学のため故郷を離れた若者が、「少し不便だけれども愛着のあるふるさとに戻りたい。」と思えるような宮崎にしたいからである。そのためにも景観づくりの活動に子どものうちから参加してもらうことは重要であり、あらゆるところで県民の皆様と協働したいと考えている。

[委員]

- ・ 鉄道車窓をいかに維持していくかということを考えているが、沿線の雑木をひたすら伐採しており、相当なコストが掛かっている。
- ・ 県民としてどう参加すればいいのかが全然分からない。登録団体制度についても、実際にどのようなメリットがあるかが分からないので、計画を打ち出すときにはしっかりと説明して欲しい。
- ・ 企業を巻き込むという話があったが、最初から良好な景観を形成しようという企業はないので、しっかりとこれに参加することのメリットを打ち出せるようにして欲しいと思う。企業の理屈としては、コストに見合う部分というのがどうしてもあるので、そこを見せて欲しい。

[委員]

- ・ ぜひ、ビューポイントとしての路線バスの車窓も考慮して欲しい。

【その他】

(1) 美しい宮崎づくり大賞について

[委員]

- ・ 審査に当たっては、現地に行くことになるのか。

[事務局]

- ・ 応募用紙に複数の写真を添付していただくこととしており、それをもとに審査する。
- ・ 本来は現地に行って言葉を交わしながら審査の方が望ましいのかもしれないが、今年度は書類により審査することとしたい。選考方法については、必要に応じて来年度以降に改善していきたい。

(委員に選考委員となっていただくことについて了承された。)

(2) スケジュールについて

(質疑等は特になし。)